

- 「震災から自分の身を守る」
～高齢者・障がい者・子ども・女性などの視点から～
●フォーラムに参加して
- 介護は突然やってくる
～どうする?!仕事と介護の両立のコツ～

- 「[居場所]のない男、[時間]がない女」
を読む
- 編集後記
- インフォメーション

かがやけ地球



2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業 男女共同参画啓発講演会

震災から自分の身を守る

共に生きる
フォーラムふじさわ2016

～高齢者・障がい者・子ども・女性などの視点から～

自然災害は突然やってきます。
東日本大震災では25万人近くの人々が避難所で2週間以上生活をしました。
もし自分が、被災者となり、避難所で生活することになったら…
東日本大震災や熊本地震等の避難所で実際にあった事例などから、
今後の災害への備えについて考えていきましょう。

避難所で、あなたならどうしますか?



池田恵子さん
静岡大学教育学部 / 静岡大学防災総合センター教授、
震災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表

フォーラム特集

2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業
共に生きるフォーラムふじさわ2016

「震災から自分の身を守る」
～高齢者・障がい者・子ども・女性などの視点から～



11月20日(日) 14:00～16:10 (開場13:30)

会場 湘南NDビル6階 6-1会議室 (藤沢市藤沢109-6)

定員 100名(申し込み制・先着順)

TEL: 0466-25-1111 (内線2131) ※受付は休・祝日を除く月～金曜日8:30～17:00まで

申し込み方法 H.P: 共に生きるフォーラムふじさわ2016 [検索](#)

E-mail: jinkendanjyo@city.fujisawa.kanagawa.jp
FAX: 0466-24-5928

電話、市ホームページ電子申請、Eメール、またはFAXで:
①住所 ②氏名(ふりがな) ③電話番号 ④託児の有無(名前・ふりがな・年齢・性別)
を記入の上、お申し込みください。託児申し込みは先着順(6名)で11月10日(木)が切となります。

問い合わせ 藤沢市 企画政策部 人権男女共同参画課 TEL: 0466-25-1111 (内線2131)

主催: 共に生きるフォーラムふじさわ2016実行委員会・藤沢市



「震災から自分の身を守る」

～高齢者・障がい者・子ども・女性などの視点から～

2016年11月20日(日)、「共に生きるフォーラムふじさわ2016」(共に生きるフォーラム2016 実行委員会・藤沢市主催)が、藤沢市役所で開催されました。



講演のポイント

- 災害に強い地域をつくり、災害の被害を拡大させないためには、**男女双方の視点と参加が必要不可欠**である。
- 男女双方の視点から、災害前の備え、発災後の対応に**必要なことを具体的に**理解する。

1 災害時の「共助」の重要性について

自助・共助・公助とある中で、震災時に命が救われたのは「近所の人による共助」が8割以上と圧倒的に多かった。…… 阪神淡路大震災事例より

- 自助:自分や家族を自分で守る
- 共助:地域の人々が助け合う
- 公助:県・市町村・消防機関などによる救助・支援

2 共助の基礎＝ 人々の多様性への理解・ 男女双方の視点と参加で

災害関連死の約半数が避難生活での疲労が原因ということなども踏まえ、避難所の運営組織に(行政だけ、地域の一部の人だけでなく)多様な人々が入る必要がある。

フォーラムに参加して

感想①

●各自が被災者となり避難所で生活することになったという想定で、「そこに集まる高齢者・障がい者・子ども・女性など多様な人たちが抱える問題をどう解決するか」、グループ分けをして話し合い、数グループより発表された。時間は足りなかったが、聴くのみでなく自発的に考えてみたことに大きな意義があった。

●当日は市民実行委員である女性の代表・副代表・司会ほか、受付・案内などの男女各委員と実行委員会事務局により

運営された。テーマ検討以来の経緯を含め、被災現場での女性リーダーの活躍にも通じる事例となったのではと一実行委員としても感じられた。

感想②

東日本大震災では25万人近くの人が避難所で2週間以上生活をしたそうです。その生活が非常に過酷だったとのこと。被災者、なかでも女性たちが物資の不足やプライバシー、安全の問題など様々な困難に遭遇したことを報道で見聞きしながら、私は自分の地区の避難場所しか知らないとい



講師
池田恵子さん

静岡大学教育学部 教授
同防災総合センター 兼任教員
減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表



グループでの話し合いの様子

3 性別・立場による被災の困難の違い

- **生活環境**
着替えや授乳の場所がない、下着が干せない、乳幼児や障がいのある人(家族)が避難所に居られない。
- **物資の不足と配布方法の問題**
女性用品・乳幼児用品・介護用品の不足と、男性のみによる配布。炊き出しも訓練では材料が揃っているが、被災時には何も揃っていない。
- **安全の問題**
ハラスメント・DV・性暴力の発生。日常にもまして声を上げにくい。女性用トイレの配置場所も重要。
- **性別役割の顕在化**
ライフラインがない中で家事や家族の世話が固定的な性別役割分担になりがち。
- **働くこと・収入を得ること**
女性は先に解雇。失業率が増加。
- **復興への参画**
女性は議論に参加しにくい。



4 避難所運営・自主防災組織づくり・防災訓練のポイント

- **避難所運営**
避難所の運営責任者や班長を男女が担う。避難所のレイアウトを女性・高齢者・子育て家庭の視点で行う。
- **自主防災組織づくり**
男女の両方がリーダーになることや隣近所で助け合える仕組みづくりなど。
- **防災訓練**
様々な人の視点を反映した備蓄品と防災資機材選びや、避難所生活のシミュレーションなど。



“なかなか計画通りにはいかないが、身を守るための「原型」を持つことが大切で、それが被災時の具体的応用にもつながる”



う状況でした。今回、改めて被災地の実状を知り、助け合いと支援活動の好事例を学んだことで、避難所は助けてもらう場所ではなく、被災者がお互いにルールを決め、分担しながら協力し、助け合う場所なのだということがわかりました。

講演会の後半にあったグループでの話し合いでは、世代や性別、立場の違う相手に自分の考えや思いを言葉にする難しさを感じました。非常時にはさらに大変だろうと思います。普段から、声をあげたり、自分の気持ちを伝える力をつけていくこと。多様な意見を聞く耳をもつこと。弱い立場の

人を思いやる力を養っていくことが大切だと思いました。

私自身、子どもが小さいうちは、学校や子ども会、町内会などの行事に出たりして地域と密着して暮らしていましたが、子どもたちが成長するにつれて地縁が薄くなり、世代の違う人と話したり、知り合う機会もあまりなくなってしまいました。これからは意識して共に助け合えるつながりを作っていく必要があることを強く感じました。その一歩として、地域の集まりに積極的に参加し、近所の知り合いを増やしていけたらと思います。

(前田・有田 記)

介護は突然やってくる

～どうする?! 仕事と介護の両立のコツ～

2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業、男女共同参画特別講演会が昨年10月15日に行われた。講師は介護・暮らしのジャーナリストとしてマスメディアに情報発信している太田差恵子さん。1時間半の講演内容は広範囲、かつ具体的であった。



講師
太田差恵子さん

どうする?! 仕事と介護の両立

介護離職で働く場を失い経済的窮地に追い込まれる人。遠隔地の親の介護。「離職せず、遠距離でも悩まずに介護することはできないのか?」太田さんはできると言う。

「介護」に対する発想の転換。介護は義務や責任感だけで行うのではなく、プロジェクトと思って対処。介護をされる人、する人にとって最も良い方法は何かをプランし、実行できるようマネジメントすることだと話す。介護は突然やってくる。親だけではない。少子化の進む現代、子どものいないおじお婆の介護を負うこともある。介護に携わる人の生活を壊さずに介護する具体策が示された。

1) 介護の課題を探る。

まずは親子の対話から。

突然親が倒れたら入院、手術、治療、退院後の在宅介護等を一気に背負う。介護に正解はない。介護できる事柄、できない事例を率直に話し合う。それには普段からの対話が肝要。親の健康時の暮らしぶりとの生活現状を双方が知ること。

2) 情報収集 要介護者(親)住所地の支援サービス情報を得る。

自治体、NPO法人、民間事業等、介護関係の支援サービスを活用する。サービスの内容は地域に



よって異なる。要介護者住所地の情報を事前収集しておくことが大事である。

3) 介護はひとりではなくチームで。

介護の種類は多岐にわたる。在宅介護



講演会の様子

の食事、排泄、入浴、薬の服用等。入院中は病院に任せても、入院費、書類の手続きがある。介護資金調達、要介護者の財務管理。長期介護、遠距離介護で介護貧乏にならないためにも介護チームが必要である。

親族、友人、隣人、地域役員(民生委員)、行政(デイサービス、ヘルパー)等を組み込んだ体制づくりの介護。これらの課題を遂行するプロジェクトを行うのも介護なのだ。

介護は他人事ではない。誰にでも起こり、誰もが当事者になり得る。講演内容を全て伝えることは難しいが、避けられない介護問題の不安が和らいだ。

職場では、どうすればもっと仕事がしやすいか、より良い仕事ができるのかと考え、ミーティング(会議)をする。「介護も同じ」と太田さんは言う。介護サービスは種々用意されてきた。介護保険、介護割引(遠距離介護の運賃)、各種施設等。まずはいきいきサポートセンター(地域包括支援センター)^(※)へ相談。(山口 記)

※: 市内16ヶ所に設置。市民センター等にあるパンフレットを参照。もしくは、高齢者支援課へ問い合わせ。☎0466-50-3571(直通)

書籍紹介

リビングの象に気づかない!?
日本人の生活感を解く、

『「居場所」のない男、 「時間」がない女』を読む

みなした きりう
水無田 気流 著(日本経済新聞出版社)



この国には、巨大な時空の歪みが存在している。
SFの話ではない。今、この瞬間も進行中の事実
である。それは、サラリーマンの夫と妻のあいだに
横たわる、暗くて深い「時空の溝」に由来する。

これは本書の書き出しである。男女それぞれの
貧困問題、男性の孤立問題である「関係貧困」・人
生の自由時間が乏しい女性の「時間貧困」につい
ての考察。記事タイトルにある「リビングの象」と
は、「見慣れ過ぎて、異常が日常風景に親和し、誰
もそのおかしさに気づかなくなっている状態」を意
味するそうだ。リビングの象、想像するだけでオン
ロシイが、意味はもっと怖ろしい。著者は「ベビー
カー論争」や「声かけ事案」(※1)をリビングの象とし
て日本社会の不寛容さに言及している。

性別分業(夫が稼ぎ妻が家事を引き受ける)に
より男女が生活する時間と空間を分けられてきた
日本人の生活感は、巨大すぎてかえって見えない
「時空の歪み」を生み出してしまったという著者の
主張には説得力がある。確かに、誰もが共存協働
するための基盤となるはずの寛容や公共意識の問
題を、自己責任論ですませてしまうようでは軋轢を

生むばかりだろう。

幸福の物語は転倒しやすいものだと言
う。旧来の日本社会の安定は、戦後日本の飛躍的
経済成長かつその継続があった時期に形作られた
ものである。しかし、高度成長期の安定した国民生
活を取り戻そうにも、当時の均質的な社会はあく
まで結果であり決して原因などではないのだ。日
本人の生き方のモデルとして戦後形成された家族
を養う男性像、ひいては性別分業自体が変更を余
儀なくされていることを著者は強調する。

人口・産業・社会など人を取り巻く環境は常に
変化している。私たち一人ひとりに与えられた人生
も望むと望まざるとにかかわらずやはり変化し続
けるものだ。「ワーク・ライフ・バランス」も「ダイ
バーシティ」(※2)も、今を生き抜くうえで私たちに
とってなくてはならない「道具」のひとつにちがひ
ない。にもかかわらずいずれの「道具」も、時空が
歪んだ世界では扱いに窮するだろうか。

リビングに象がいるのに見て見ぬふりをするの
はなんとも苦しい。「象」についても「道具」につい
てももっと考えていきたいと思う、家族とともに。

(鈴木 記)

※1:町なかで見知らぬ人から声をかけられた子どもや女性が、その言葉つきやふるまいから不安を感じるような事例。誘拐や性犯罪などにつながる場合がある。[出典:デジタル大辞泉]著者によれば、昨今、男性からの日常的なあいさつや会話までが犯罪を予感させるものとして、声かけ事案として扱われてしまうことがあるという。

※2:「多様性」のことをいう。性別や国籍、年齢などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会をダイバーシティ社会という。[出典:内閣府男女共同参画局 男女共同参画関係用語]

- 8年前、亡母を看取る介護に明け暮れた半年の日々。母に不服はなかったかと悔恨の思いよぎる。(山口)
- 紐を編むクラフトを教わった。理解するのに人の倍かかる。手も頭も動かさないと、固まる一方なのだ。(有田)
- 時間も居場所もつくりだすもの、そう思っているけれど…本書は「あとがき」もまた秀逸。(鈴木)
- 「震災時に命が救われたのはご近所の共助が圧倒的に多かった」が胸に刻まれた。(前田)

インフォメーション



募集!

**本紙で記事を書いてみませんか?
「かがやけ地球」編集員を募集します!**

申し込み・問い合わせ

活動内容

情報紙の企画・取材・記事作成など。

対象・人員

市内在住・在勤又は在学の2017年4月1日現在18歳以上の方、若干名(選考あり)。

謝礼

1回発行ごとに7,000円(年4回発行予定)

※市議会における予算の議決を前提としています。

任意の用紙に、

①住所 ②氏名(フリガナ) ③生年月日 ④職業
⑤電話番号 ⑥編集経験の有無 ⑦応募理由・男女共同参画社会実現への「教育」「労働」「社会参加」「福祉」「健康」等の考え方(800字程度)を書いて、人権男女共同参画課へ郵送またはご持参ください。

ご持参の場合は、湘南NDビル8階(藤沢市藤沢109-6)人権男女共同参画課へお願いします。



医療法人社団 藤順会

藤沢順天医院

神奈川県藤沢市鶴沼橋 1-17-11

Tel.0466-23-3211

人間ドック 定期健康診断

脳ドック 婦人科検診



<http://www.fujisawa-junten.or.jp>

**かがやけ地球は、市民の編集員さんの
企画・運営によって、年4回発行しています。**

編集スタッフ 有田 留美子・鈴木 悠子
山口 千鶴子・前田 英孝

ご意見・ご感想・今後扱って欲しいテーマなどをお待ちしております!

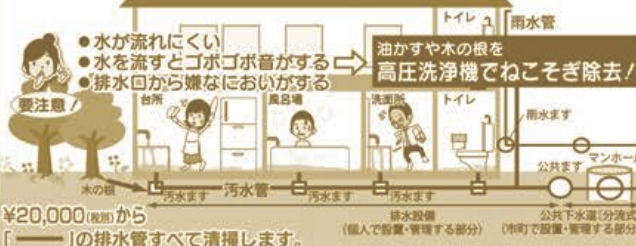
FAX 0466-24-5928

E-mail fj-jinkendanjyo@city.fujisawa.lg.jp

お任せ下さい! 排水管の清掃・詰まり

見積無料 **¥20,000** (税別) から

コスト半分!クオリティは2倍以上!!



◎詰まりの2大原因、油かすや木の根を、高圧洗浄機で一掃!
◎藤沢市の下水管清掃などを受託している排水管清掃のプロがおうかがいします。マンション・アパートも可。お気軽にお問い合わせ下さい。
※清掃以外の作業は別料金

株式会社 藤沢市興業公社
0466 (22) 9141
8:30~17:00(月~金)
土・日・祝日定休
<http://www.kousya.co.jp>
藤沢市鶴沼神明1-1-7

毎月1回! 中級・上級の本気講座(ステージ)にて、楽しいイベント開催中!

藤沢駅直結

フジサワ名店ビルでは、様々な貸ホール・ギャラリーを提供しております。教室の開催や展示会、講演などに、どうぞお気軽にご利用くださいませ。

空室状況は下記WEBサイトより確認いただけます。

地域密着 “元気” デパート
フジサワ名店ビル
0120-111-391 0466-23-0111 www.fujisawa-meiten.com

レディオ湘南は開局 20周年!

レディオ湘南 FM83.1